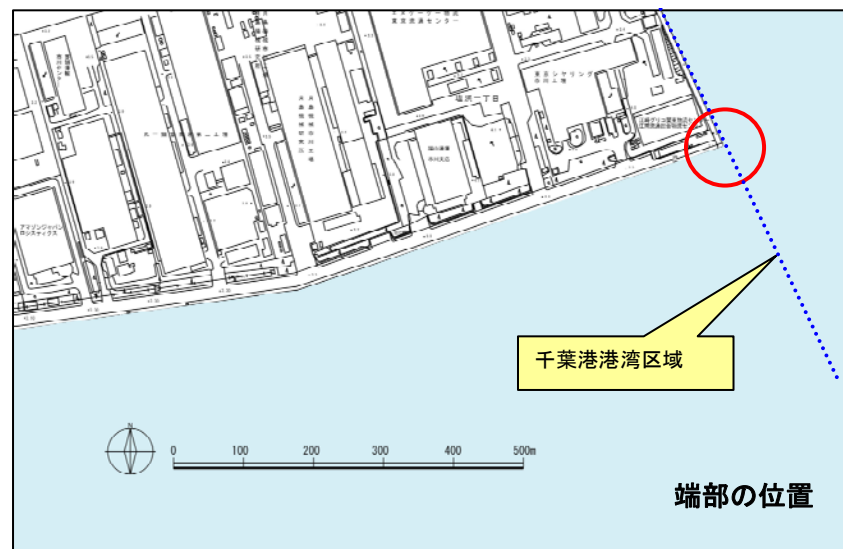


■ 塩浜1丁目護岸の端部構造について

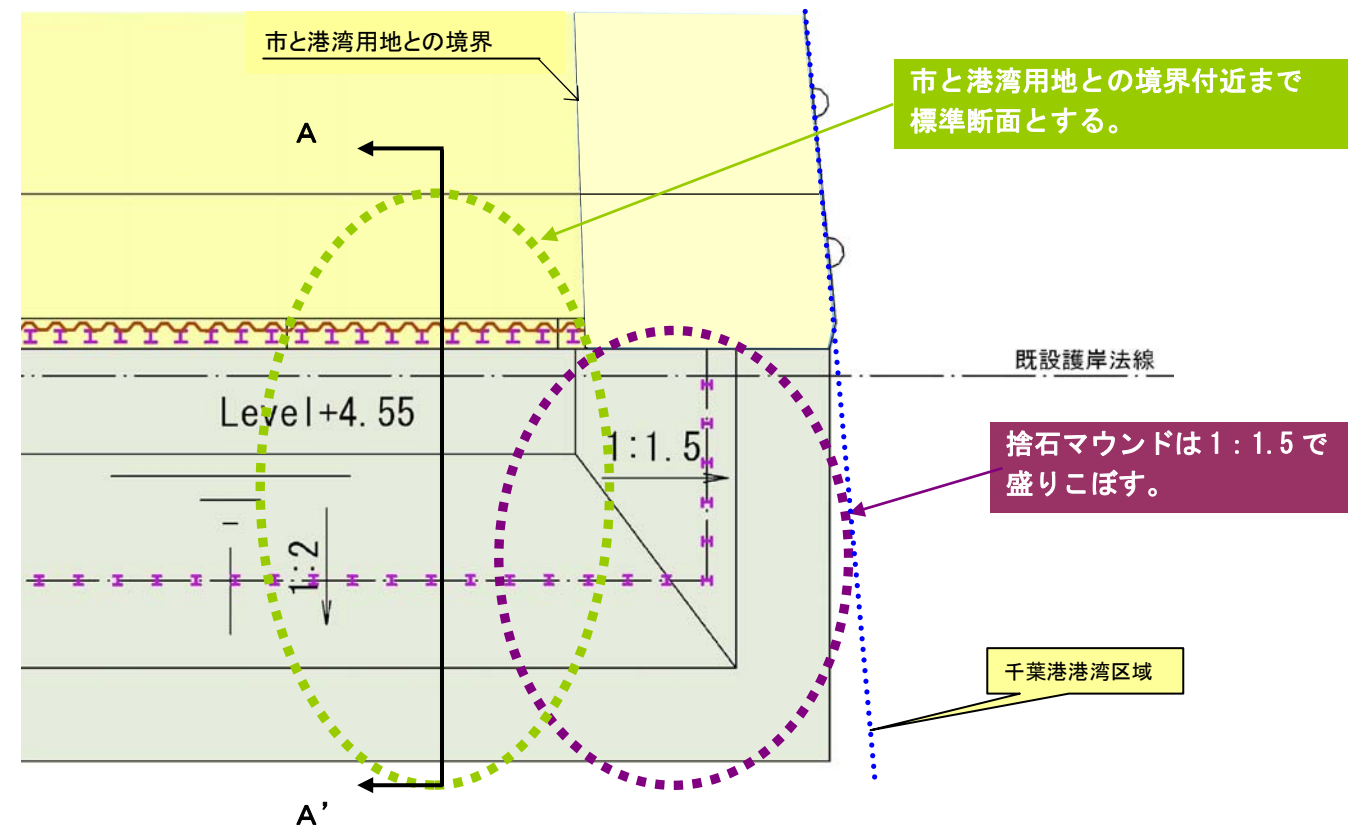
事業対象区間の東端における端部処理工法の検討に当たっては、以下に掲げる事項に配慮して最適な処理工法として、港湾区域へ張り出さない「盛りこぼし式」とする。

配慮事項・位置図

- 港湾管理者との調整
港湾区域外で処理する。
- 施工性
施工の長期化の要因となる仮設等の海上工事、地盤改良を極力回避する。
- 経済性
概算工事費を最小化する。

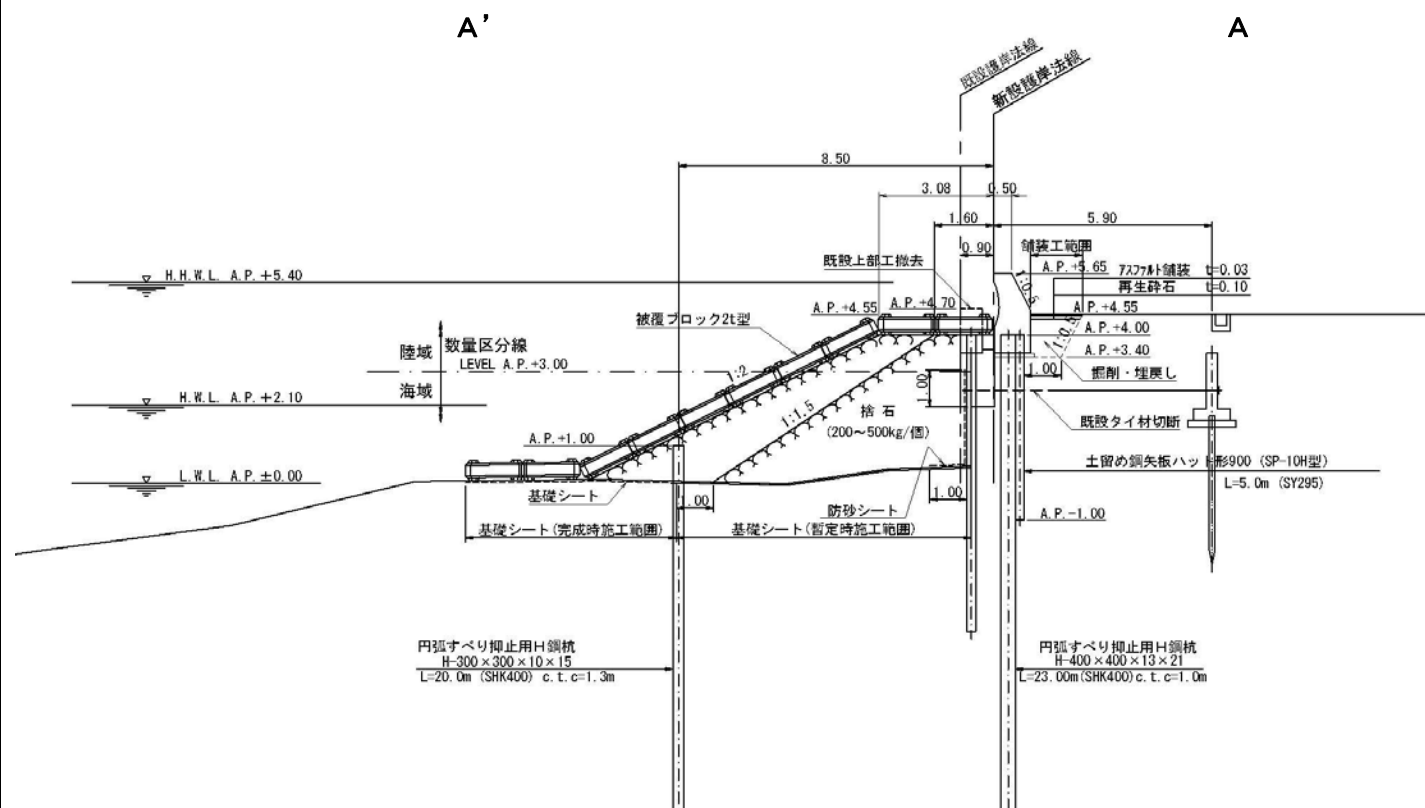


平面図

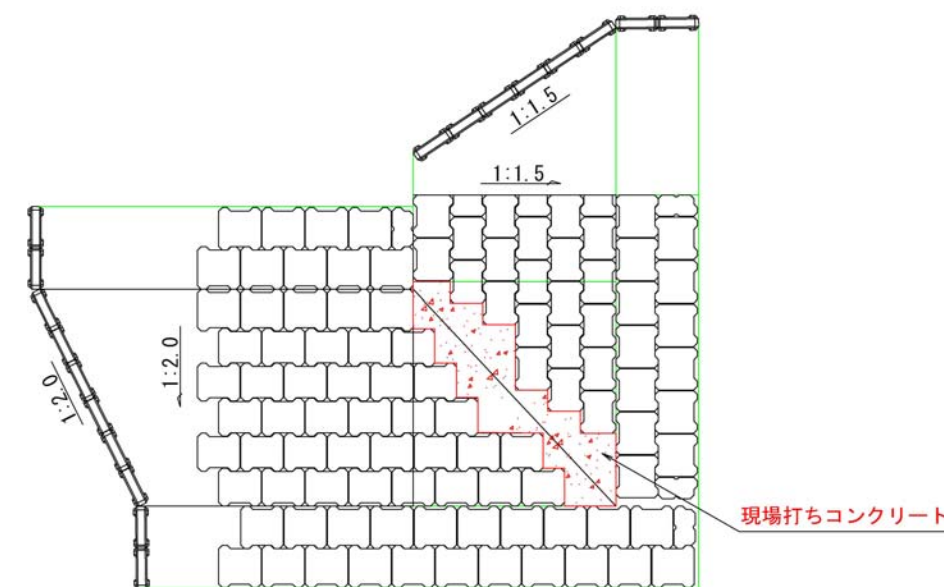


標準断面図

【A-A' 断面】



端部の処理イメージ



注1: 尾根部に接続するブロックは連結フックを設けて現場打ちコンクリートとの連結性を高める。

注2: 当該ブロックは離岸堤の法面で1:1.5の実績あり。

- * 尾根部付近までブロックを敷設し、尾根部の空隙には間詰めコンクリートを充填する。
- * 端部で使用するブロックは、質量の割増し等の必要性を含め詳細設計で検討するものとする。

■ 端部の状況

端部の状況



① 護岸の法線方向に端部を臨む



② 端部付近の状況